4日
曜日)
561号
第1・第3水曜日

家具新聞

www.kagu-news.com

発行所　家具新聞社
発行人　小田部亨
〒104-0045 東京都中央区築地7-10-13
日刊スポーツNCビル4F
電話(03)6264-1898㈹ FAX(03)5148-1718
E-mail:kagu-news@seisaku-center.co.jp
購読料　国内　18,900円(年間・前納)
海外　23,000円(年間・前納)
昭和41年6月13日　第3種郵便物認可

好評発売中
流通の特質、変遷過程、背景を明らかにする一冊
戦後日本の木製家具
Postwar Japanese Wooden Furniture
定価12,000円(送料・税込) A4判 上製本・ケース入り 518頁
お申し込みはメールかファクスで
kagu-news@seisaku-center.co.jp　FAX 03-5148-1718

「横濱杢學堂」立ち上げ

神奈川県家具工業組合「かなもく塾」キュリオなど新作発表

神奈川 初のブランド誕生

横濱杢學堂

懐かしさとハイカラな雰囲気を持った「横濱杢學堂」のロゴ

神奈川県家具工業組合(横内昭次郎理事長)のメンバーで構成される「かなもく塾」は神奈川家具初のブランド「横濱杢学堂(よこはまもくがくどう)」を立ち上げ、新作を4日から始まる「テクニカルショウヨコハマ」で発表する。リーダーの細貝昭一氏(アレックス社長)は「2年間かけて議論を積み重ねて神奈川ならではの家具に仕上がった。なによりも、ものづくりを通して一つにまとまることができたことが収穫」と手応えを感じている。各社が知恵を出し合い独自ブランドを立ち上げるプロジェクトが家具産地や各地域で相次いでおり、業界活性化の新たな動きとして注目される。

マホガニー調のキュリオケース。かなもく塾のブランド立ち上げを支えた神奈川県家具工業組合の横内昭次郎理事長(右)と小安寛専務理事(左)

「かなもく塾」は洋家具発祥の地である横浜の伝統と技術を継承するために、神奈川県家具工業組合に所属する11社の若手経営者と家具職人らで構成されている。丁稚制度を取り入れた人材育成法が各界から注目されている秋山木工の秋山利輝社長の「若手の育成も含めて、組合員が将来に希望を持てる企画を立ち上げよう」という掛け声で2009年に発足。神奈川らしいブランドを立ち上げようとメンバーで議論を重ねて今回の新作発表に至った。

「何をしたらいいのか」「何を残したらいいのか」「世の中の役に立つものを作ろう」。各自がアイデアを持ち寄り、時には意見を戦わせながら、製品コンセプトを絞り込み、ハイエンドのユーザーをターゲットにした。

新作は曲面ガラスのキュリオケースとロールトップデスクの2アイテム。「洋家具発祥の地である横浜の香りを入れながら家具を復興させる」(細貝氏)という思いを込め、家具メーカーなどメンバー16社が集まり、それぞれの得意技術を生かして製品を作り上げた。

横浜の関内地区には、キングの塔(神奈川県庁本庁舎)・クイーンの塔(横浜税関)・ジャックの塔(横浜市開港記念会館)があり、地元では「横浜三塔」と呼ばれ、横浜港のシンボルとして長年市民に親しまれている。横浜三塔が完成した当時は、港に入港する船の目印になっていた。

キュリオケースは、この3塔をヒントに灯台をイメージしてデザインされた。材はマホガニーを使い、ラインLEDを採用して縦に配置することによって隅々まで光が行き渡っている。製作は横内製作所が担当した。

ロールトップデスクは、クライアントの邸宅に残っていたという欧州で約150年前に作られたモデルを現代の技術で再現した。巻き込み戸を閉じると自動的に引き出しがロックされるカラクリ機能まで備えている。材はウォルナットで、マカロニデザインが製作した。

「横濱杢学堂」の製品には、神奈川県家具工業組合の厳しい審査を受けた製造検査証が発行され、製造ナンバーと製作者名が入ったオリジナルプレートが貼られる。

新作が発表される「テクニカルショウヨコハマ」は4日から6日までの3日間、パシフィコ横浜展示ホール(横浜市西区みなとみらい)で開催される。

ブランド立ち上げに参加したメンバーの会社は次の通り。アレックス、秋山木工、岡崎木工、東栄工芸、マカロニデザイン、横内製作所。

製品開発の打ち合わせをする「かなもく塾」のメンバー

業界再興の起爆剤に

府中家具(広島)の松創と高橋工芸は昨年、スウェーデンを舞台に独自ブランドの「MATSUSOT」を発表した。家具の町・大川では、若手が集まった大川維新の会が昨年2月、東京で初の展示会を開催して、家具・建具メーカーのコラボレーションによる新作を発表した。2008年に立ち上がった東京都家具工業組合の「TOBI」は、こうしたコラボの草分けとして位置付けられている。

一般社団法人日本家具産業振興会の加藤知成会長は、本紙インタビューや今年の年頭所感で「プレンドの時代」という言葉を使っている。「企業数社それぞれが持つ技術をブレンドして優れた技術を創造しようということで、いわゆるコラボレーションよりももっと結びつきの強い意味」だという。

「今後の生き残りのためにも、こういった結びつきを必要とする『ブレンド時代』にきている。1社ではなしえないことを業界内の内外を問わず、協力して知恵を出し合い、新たな取り組みにぜひ挑んでいただきたい」とその必要性を訴えている。

以前、ある若手経営者から「若者が年配者にものを言いにくい雰囲気が地元にある」という声も聞いたことがある。こうした有志の「ブレンド」は、息詰まった空気を打ち破る、産地や地域の家具業界再興の起爆剤となる可能性を秘めている。さらに、各地で立ち上がる「点」としてのプロジェクトが集まり、例えば展示会や展示コーナの実現に結び付けば、訴求力はさらに高まるだろう。

(本紙・加納編集長)

「ミス日本みどりの女神」に佐野加奈さん

20歳の東京農大生が選出

第47回ミス日本コンテスト2015が1月26日、東京都新宿区の京王プラザホテルで開かれ、今年度から新設された「ミス日本みどりの女神」に東京農大3年生の佐野加奈さん(20)が選ばれた。国土の7割が森林という世界有数の森林国である日本の林業や木の文化を20年に向けて発信するために設けられた。今後、国土緑化推進機構や林野庁の協力の下、全国での森関連や緑化推進イベントなどで活動する。コンテスト審査員として今井敏林野庁長官も出席した。

(関連記事4面)

自私寸評

アベノミクスのここ2年間の実績をみると、内外エコノミストの評価は、大企業と富裕層に厚く、中小零細企業や庶民には冷酷。その格差拡大が指摘されているが、安倍首相は「この道しかない」とアベノミクスに固執、この恩典を全国津々浦々に届けたい、と言うが、いくら待ってもトリクルダウンなど望めそうもない▼戦争を知らない、庶民の現場の生活実態に無縁。こういう首相だから、中東情勢や日本人二人が昨年6月、10月ごろにイスラム国に拘束されていることを知りながら無神経な発言をしでかし、日本人殺害という最悪の事態を招いた▼「テロに屈しない」と勇ましいことは言うが、ヨルダン政府まかせの状態。日本は過去に、福田赳夫元首相が「人命は地球より重い」と言い、日本赤軍のハイジャック事件に対応、また、1999年のキルギスの日本人誘拐事件では身代金交渉で人命を救った▼経済も行き詰まり大企業に貢

新情報の掲載スタート

紙面充実に伴い「web家具新聞」有料化

現読者にはユーザーIDを無料提供

家具新聞のインターネット版「web家具新聞」上で2月18日から「家具新聞電子版」(有料)がスタートします。現在の購読されている読者にはユーザーIDを無料で発行いたします。新聞発行2週間後に新聞の全情報が閲覧できるようになり、社内での情報共有やパソコン上での情報のクリッピング等にご活用ください。さらに出荷統計情報は、毎月の推移を確認することができるようになります。web家具新聞のみの購読(年間購読料24000円・税込み)も可能です。

家具新聞は今号から新企画をスタートしました。ランキングはカリモク家具の売り上げベスト10(1面掲載)を毎月お届けいたします。国産材活用のための各地の原木情報(4面掲載)もスタートしました。さらに「北から南から　家具団体・組合ニュース」(3面掲載)で全国の業界情報をお届けします。

●家具新聞購読料
(club家具新聞　web閲覧サービス付き)
年間　18,900円(前納、税込み)
半年　9,450円(前納、税込み)
●現在、購読されている家具新聞読者には無料でweb閲覧用のIDを発行します。
●家具新聞電子版購読料
年間　24,000円(前納、税込み)
半年　12,000円(前納、税込み)

家具新聞社

ユーザーに
聞ではさま
お届けしま
協力で、同社
クチェアと
載します。

ZT73モ
から生まれ
ストセラー
張も選べる。

広々した掛
デザインで1
ている。シェ
人気。

コンパクト
トとカバー
。

ZU48 モデル

ZT83 モデル

WU47 モデル